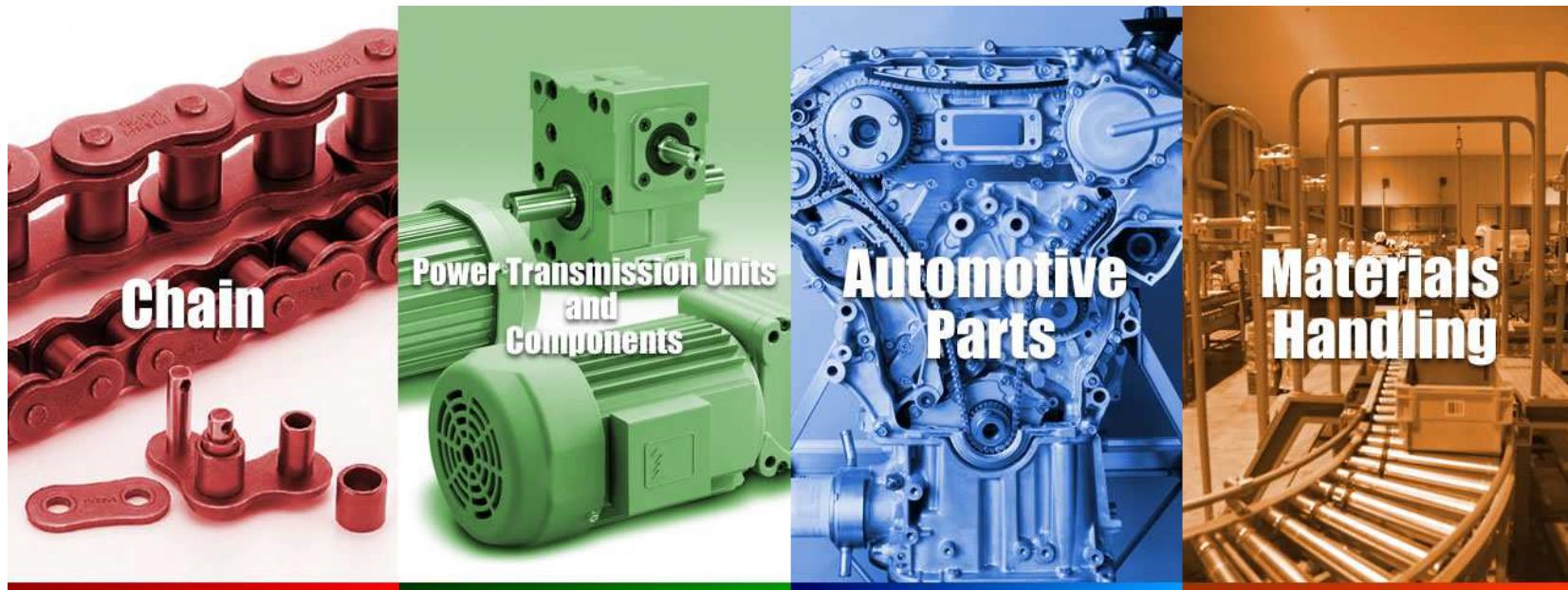


株式会社椿本チエイン 「中期経営計画2016」説明会



2014年4月21日

もくじ

業績ハイライト

長期ビジョン2020

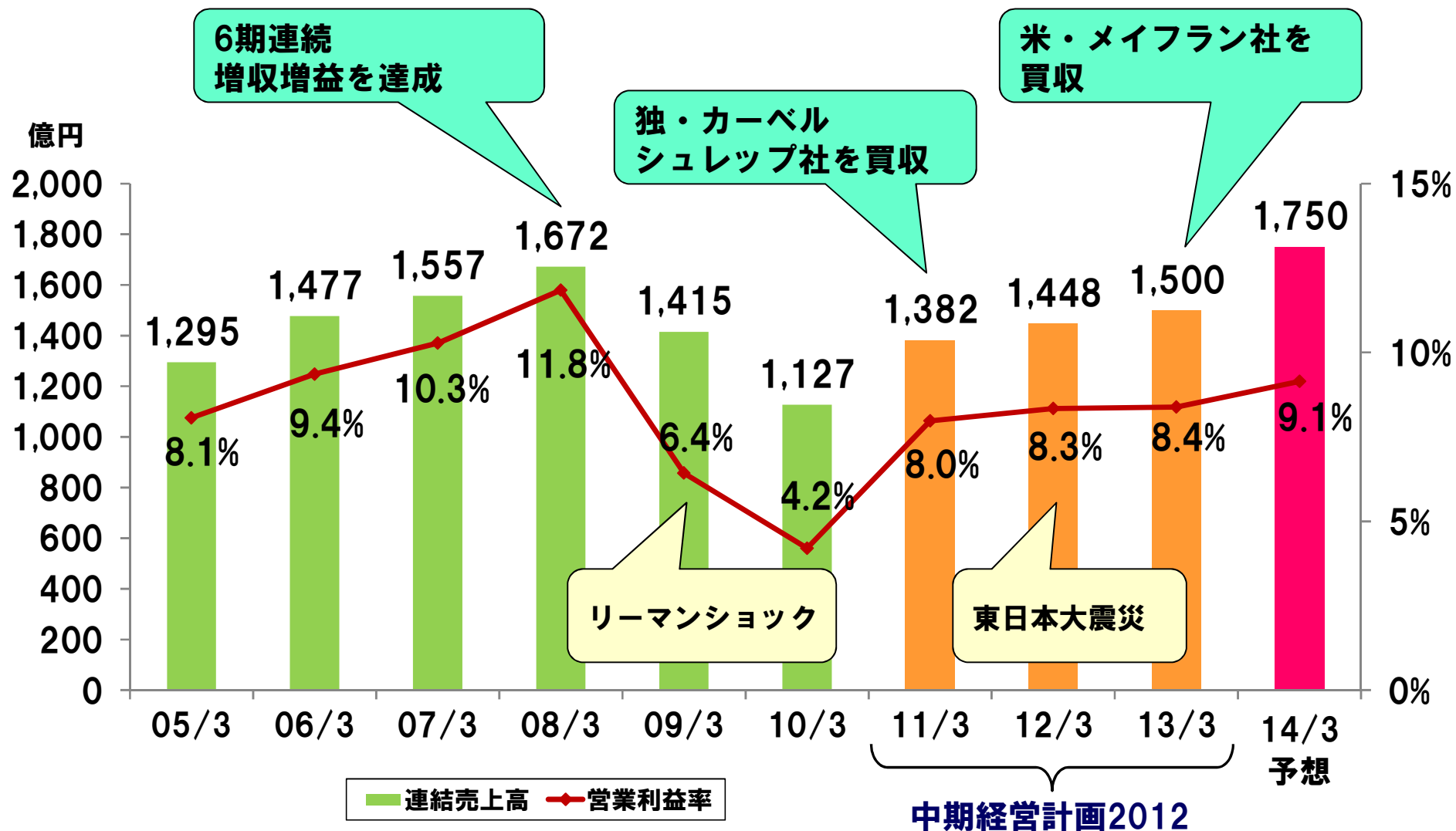
「中期経営計画2016」 基本方針

「中期経営計画2016」 事業別課題

参考資料

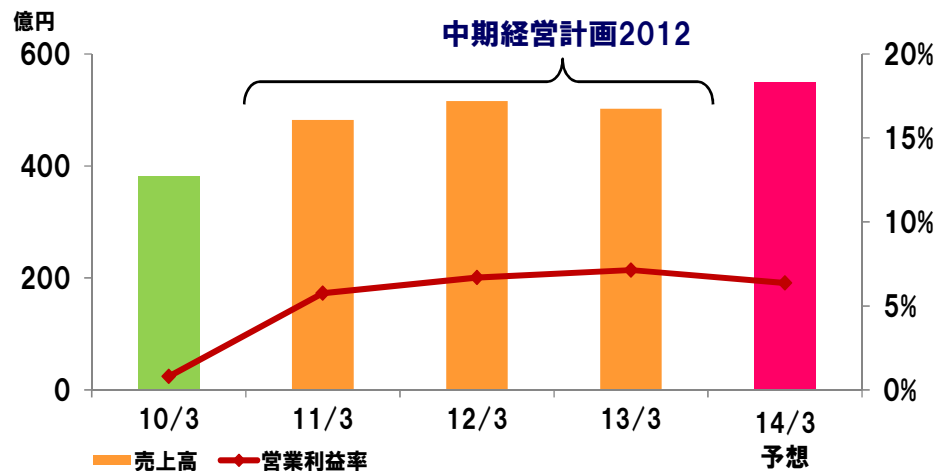
業績ハイライト

1. 連結業績の推移



チェーン、精機、マテハン：成長への課題はグローバル化

●チェーン事業



●精機事業



●自動車部品事業



●マテハン事業



「長期ビジョン2020」

**創業100周年（2017年）、さらにその先の2020年以降も
「モノづくり企業」として持続的な成長を目指す**

ターゲット市場で確固たる地位（シェア）を 確立し「グローバルトップ企業」を目指す



グローバルトップ

- グローバルでトップシェアを目指す
- ・産業用スチールチェーン
 - ・タイミングチェーンドライブシステム

ニッチトップ

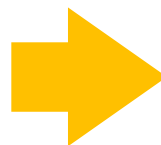
- 特定分野、地域でトップシェアを目指す
- ・パワーシリンダ、カムクラッチ
 - ・給紙AGV、創薬支援システム など



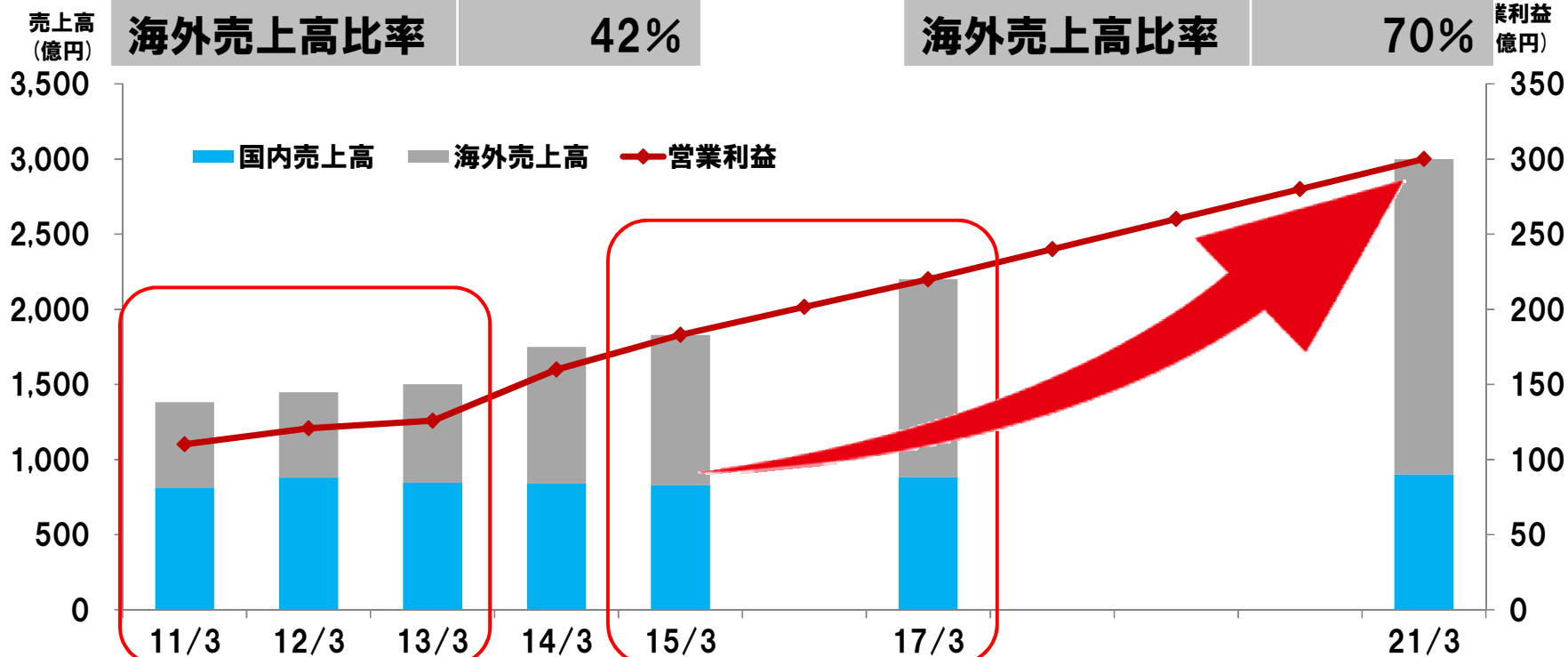
2. 「長期ビジョン2020」数値目標



2011年3月期	
売上高	1,382億円
営業利益率	8%
海外売上高比率	42%



2021年3月期	
売上高	3,000億円
営業利益率	10%
海外売上高比率	70%



経営基盤強化

中期経営計画2012

グローバル競争力の強化
マーケティング、GOP

中期経営計画2016

長期ビジョン2020
達成

「中期経営計画2016」 基本方針



基本方針

①

マーケット重視の企業文化への転換

②

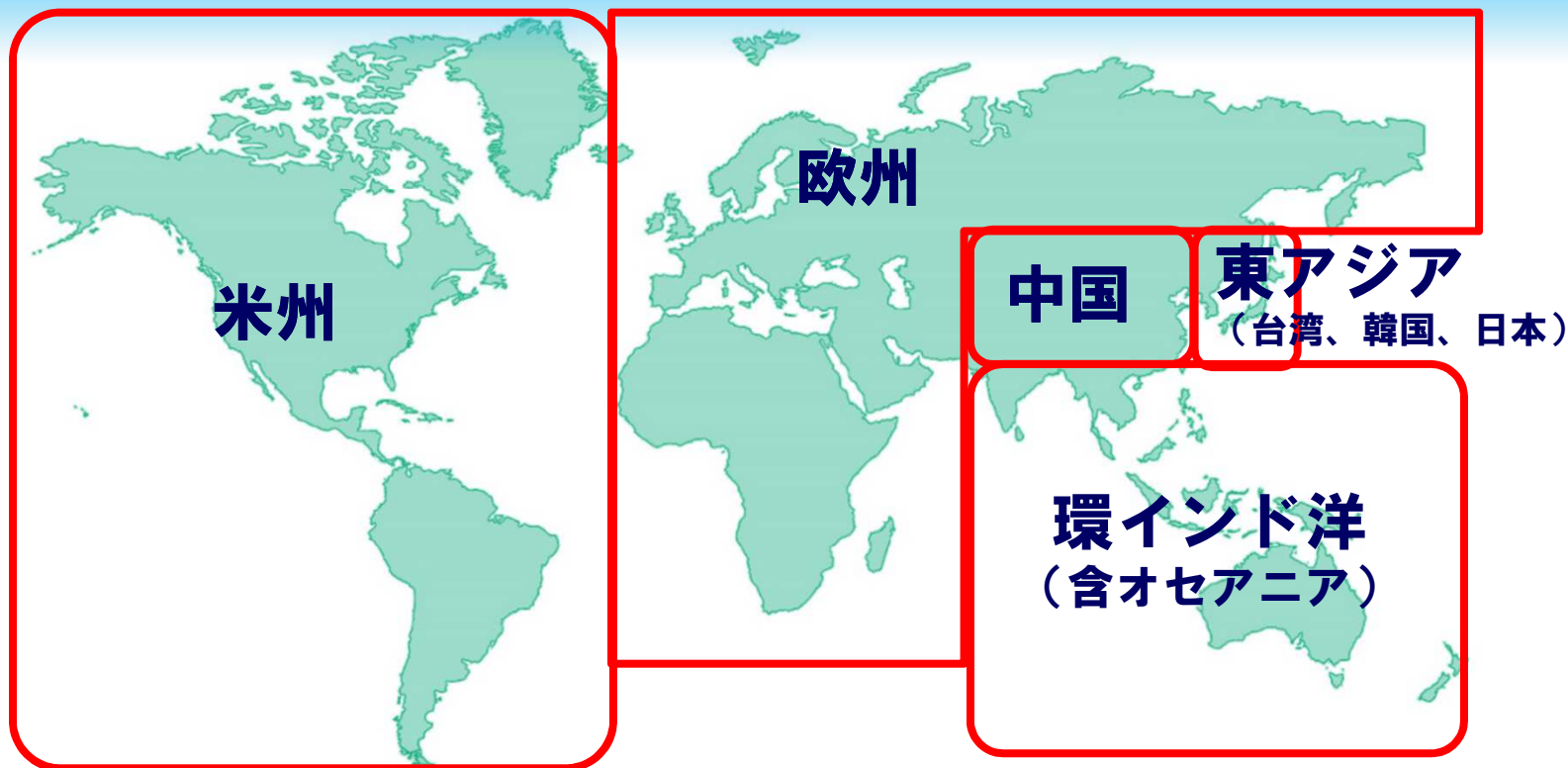
**グループ総合力を生かした
ビジネスの拡大**

③

収益力の強化



① マーケット重視の企業文化への転換



市場（地域・業界）ニーズに
徹底対応した商品開発、モノづくり



② グループ総合力を生かしたビジネス拡大

パーツからシステムまで「グループ技術力」の組み合わせにより、市場ニーズにマッチした商品（セット納入、複合商品など）を創出する

【例】工作機械での取り組み

One Stop Solutionをさらに進化。モジュール・ミニシステムの提案へ





③ 収益力の強化

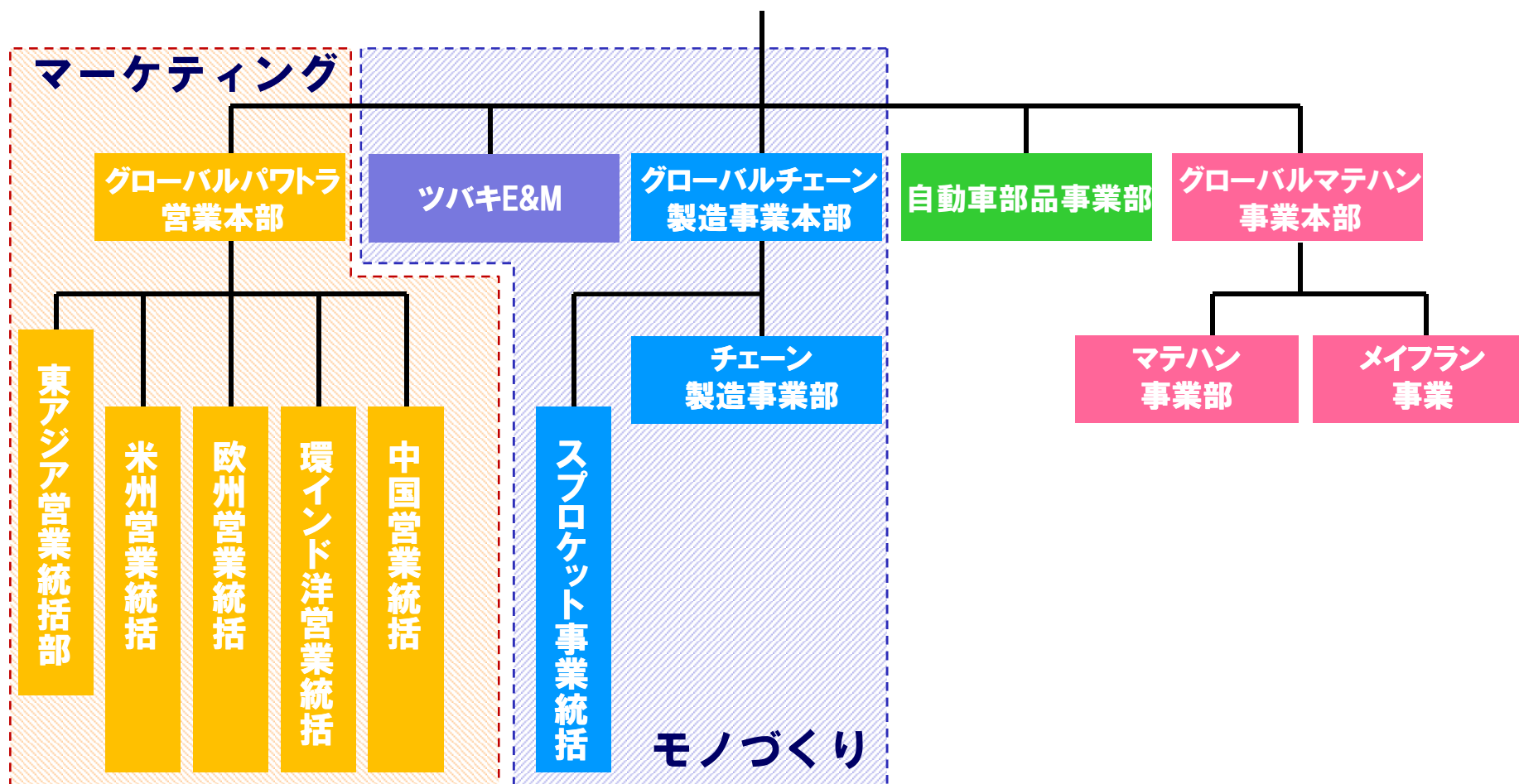
「モノづくり」部門は、「収益力」を最重要視し、
生産性改善、コストダウンに注力する



- 最新のモノづくり方式（生産技術・加工技術）の導入
- すべてのモノづくり部門がGOPを推進
- 省エネルギーでのモノづくり（生産ラインのエコ化）

機構改革：

- ① マーケティング、モノづくりの役割の明確化
- ② マテハン事業のグローバル展開強化



「中期経営計画2016」 事業別課題

マーケティング

①

主要地域におけるマーケティング強化

- ・米州、欧州、環インド洋、中国、東アジアの5地域のマーケット特性に合ったマーケティング活動による商品の提案および販売の拡大

②

グループ総合力の発揮

- ・ソリューション提案強化によるセット販売の拡大
- ・ユニット化、モジュール化
- ・マテハン事業とのコラボレーション強化

③

2020年、産業用スチールチェーンにおける世界シェアNO.1の実現

- ・ローラチェーン：中価格および高価格帯での世界シェア一位
- ・コンベヤチェーン：世界シェア一位

モノづくり

①

ハイエンド商品の競争力強化

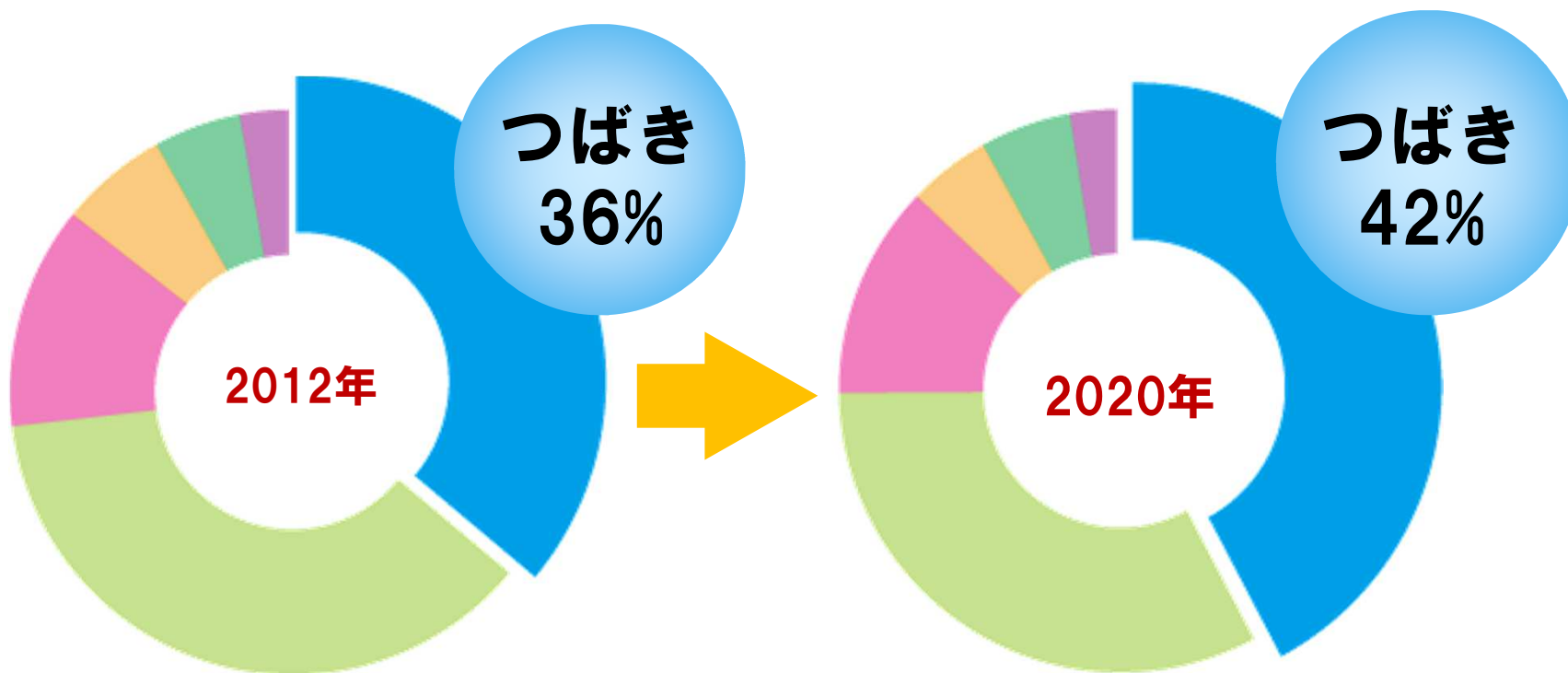
②

収益性の向上

- ・チェーン事業における国内外製造拠点の最適地化（日本、米国2拠点、台湾、中国）
- ・欧州チェーン製造拠点の構築
- ・精機事業における国内製造拠点の再編



タイミングチェンドライブシステム
ダントツ「世界シェアNO.1」の実現
(2020年)



世界シェア：数値は当社調べ

①

メイフラン事業における グローバルでのシナジー強化

- ・ 日本、米国、オランダ、中国、スロバキア

②

マテハン事業部の収益性向上

- ・ 事業全体での機能的再編も視野に入れ、
マテハン事業部として黒字を維持・継続する

③

パワトラ部門との連携を強化

- ・ マーケティング部門の統合やコラボレーション強化を目指す

「中期経営計画2016」 数値計画



1. 数値計画

単位：億円

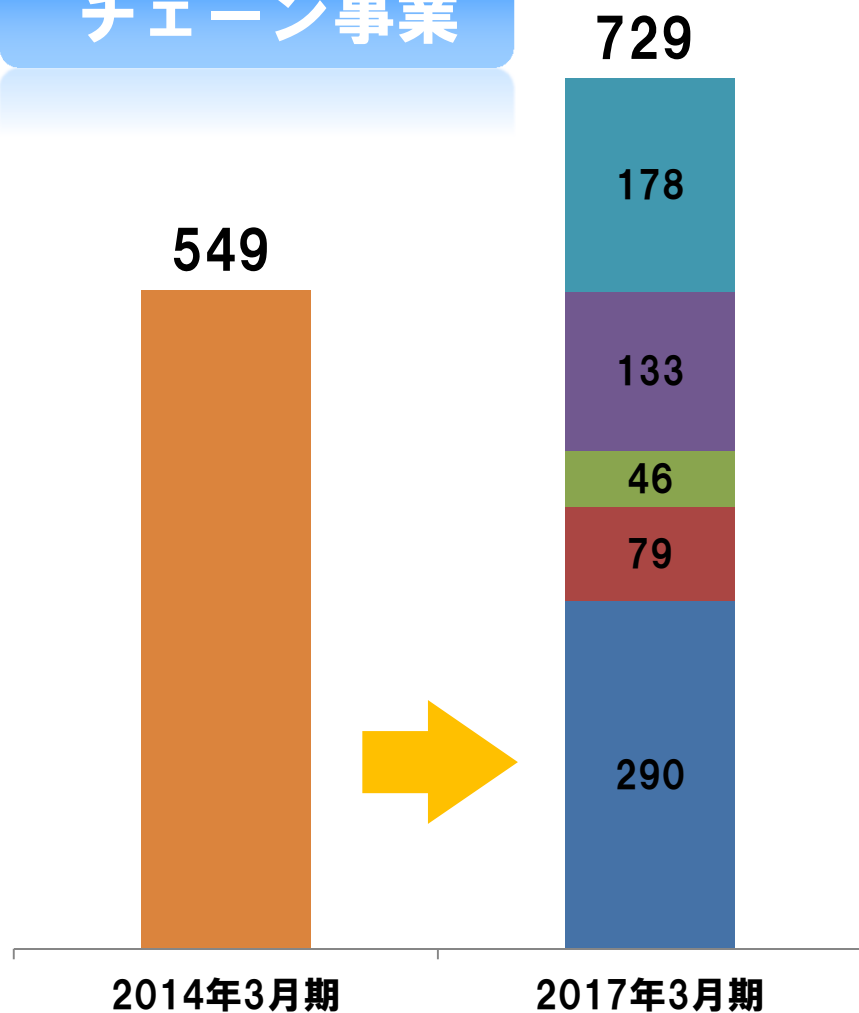
		'14年3月期 (予想)※	'17年3月期
チェーン事業	売上高	549	729
	営業利益 (利益率)	35 (6.4%)	61 (8.5%)
精機事業	売上高	212	261
	営業利益 (利益率)	21 (9.9%)	28 (10.9%)
自動車部品事業	売上高	599	744
	営業利益 (利益率)	98 (16.4%)	111 (14.9%)
マテハン事業	売上高	388	474
	営業利益 (利益率)	7 (1.9%)	21 (4.6%)
連結合計	売上高	1,750	2,200
	営業利益 (利益率)	160 (9.1%)	220 (10.0%)

※'14年3月期の予想数値は、平成26年2月7日の公表値です。

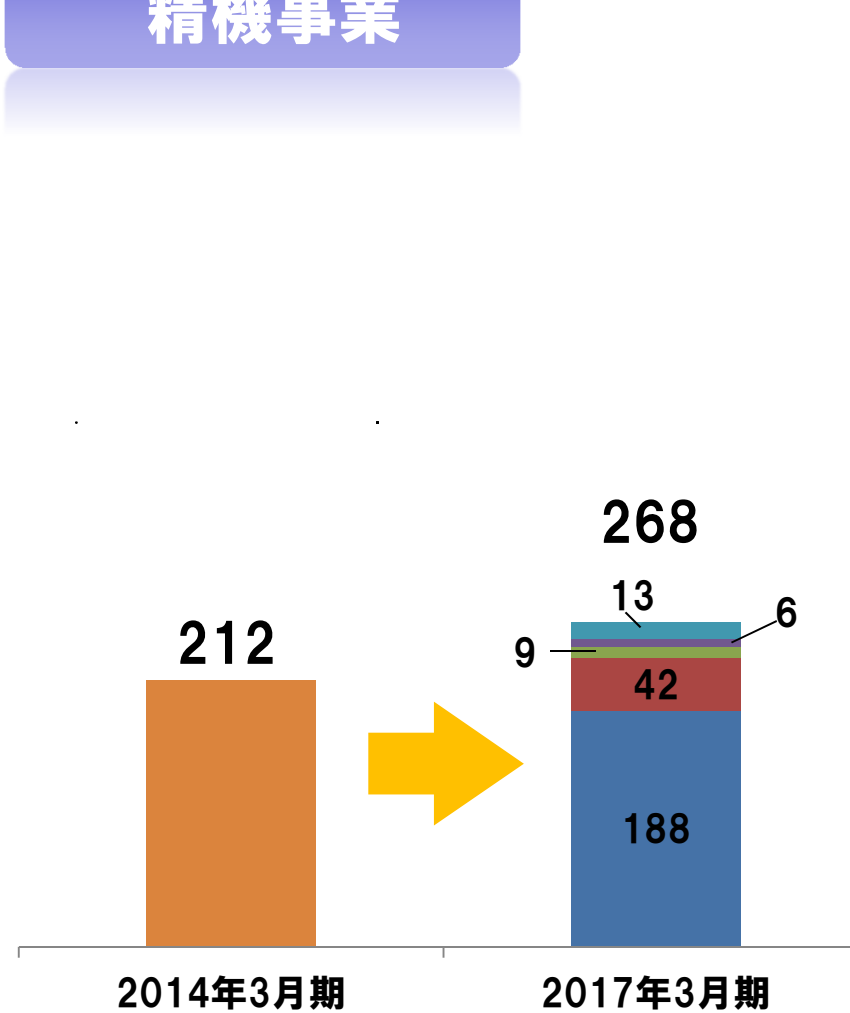
主な為替レート '14年3月期予想：US\$ =¥98.27、Euro=¥129.13、RMB=15.92
'17年3月期想定：US\$ =¥95.00、Euro=¥120.00、RMB=15.00

2. 事業別地域別 売上高構成

チェーン事業



精機事業



東アジア、 中国、 環インド洋、 欧州、 米州、 単位：億円

2. 事業別地域別 売上高構成

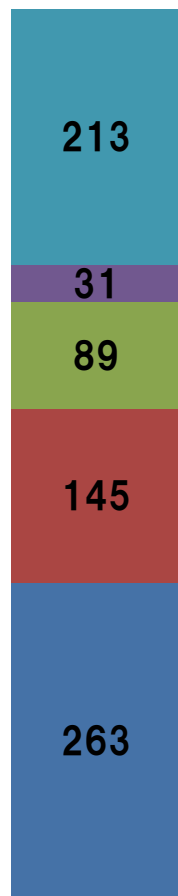
自動車部品事業

599



2014年3月期

744



2017年3月期

マテハン事業

388



2014年3月期

474



2017年3月期

■ 東アジア、 ■ 中国、 ■ 環インド洋、 ■ 欧州、 ■ 米州、 単位：億円

投資計画

設備投資総額：約350～400億円
(2015/3月期～2017/3月期の3年間合計)

- ・ **ただし、財務基盤の健全性は維持**
(ネットD/Eレシオ：0.2倍以下)

※上記は、M&A費用等を含まず

配当方針

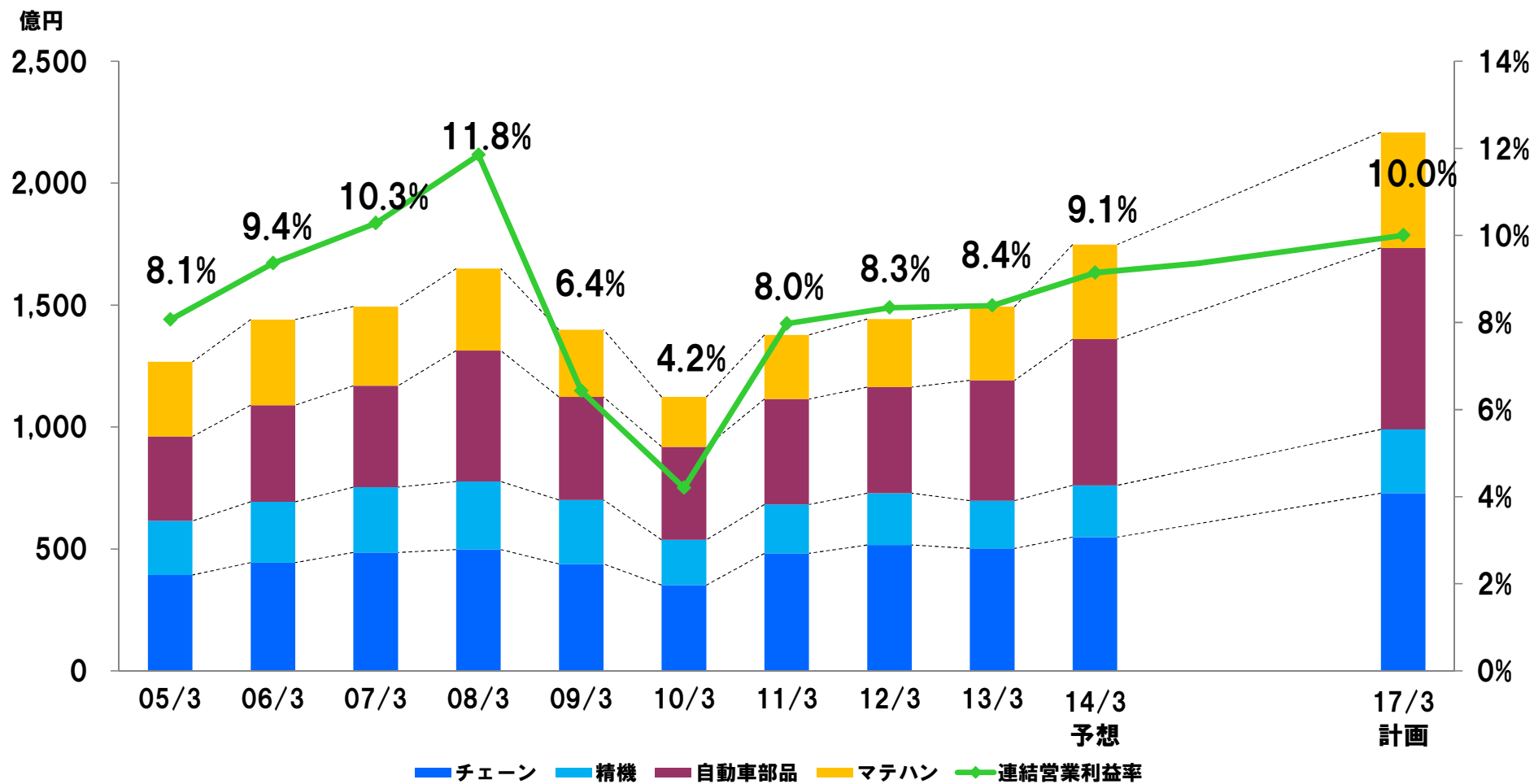
従来の安定配当から配当性向重視の方針に転換

- ・ **連結配当性向30%を目標に、3年以内での実現を目指す**

参考資料



1. 連結売上高、営業利益率の推移

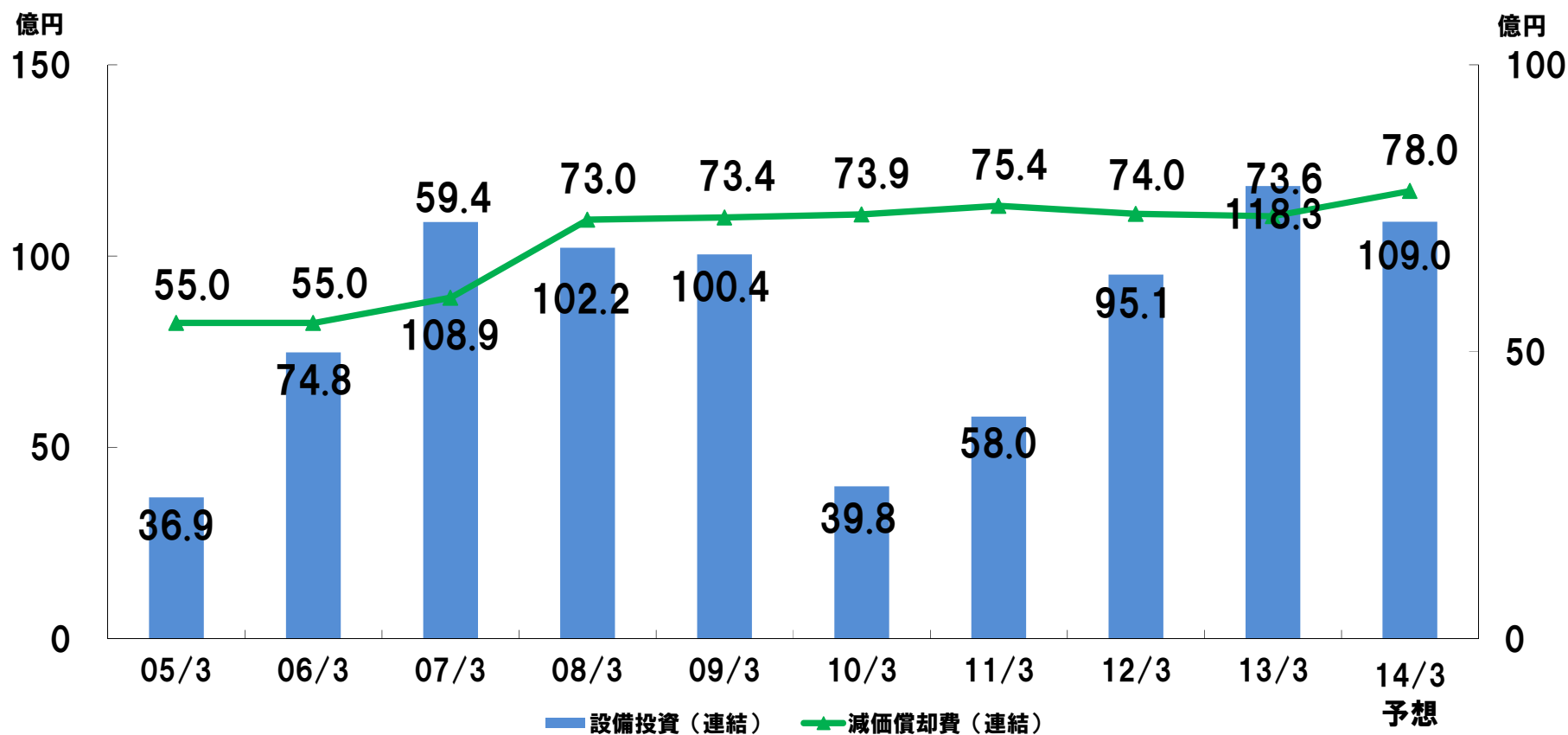


単位：億円

	05/3	06/3	07/3	08/3	09/3	10/3	11/3	12/3	13/3	14/3予想	—	—	17/3計画
連結売上高	1,295	1,477	1,557	1,672	1,415	1,127	1,382	1,448	1,500	1,750	—	—	2,200
営業利益	104	138	160	198	90	47	110	120	125	160	—	—	220



2. 設備投資と減価償却費の推移

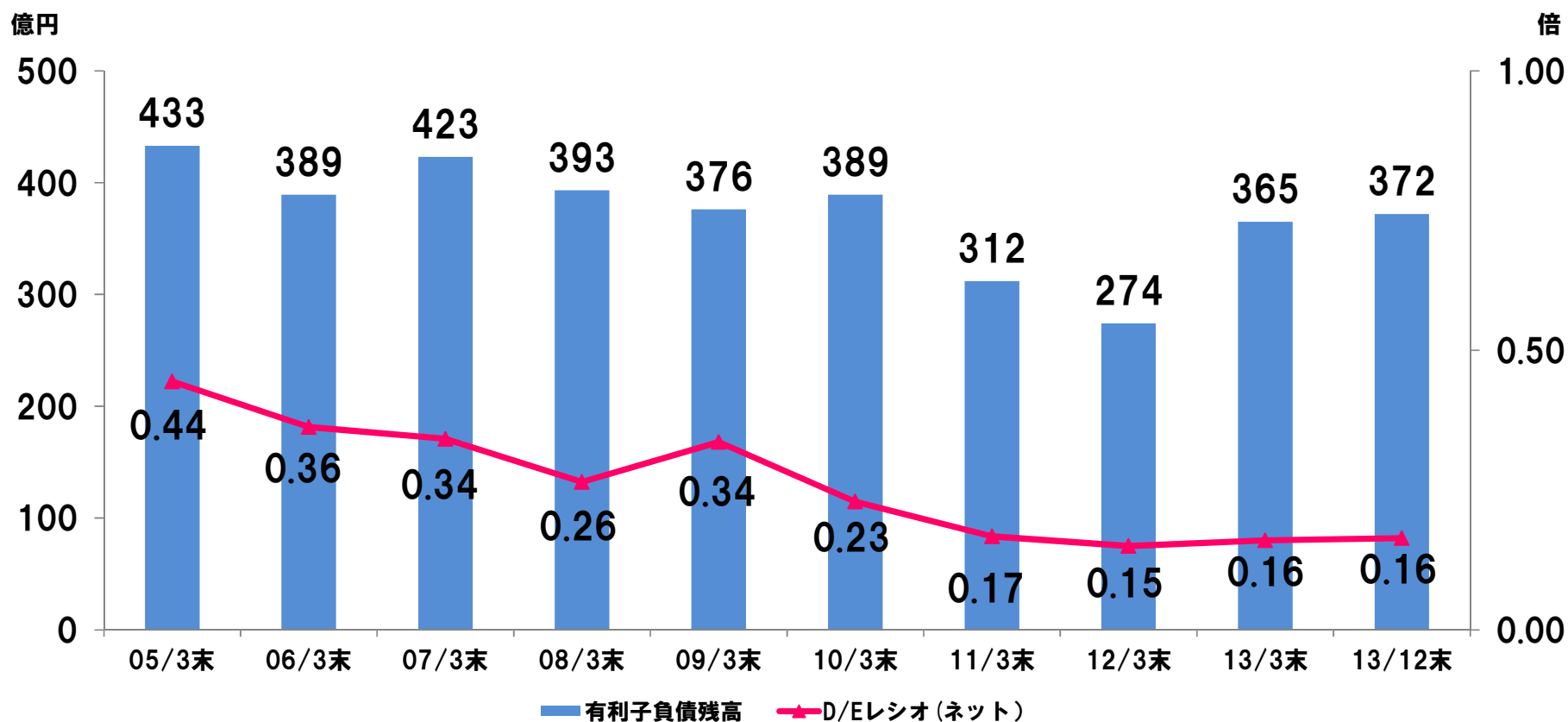


単位：億円

	05/3	06/3	07/3	08/3	09/3	10/3	11/3	12/3	13/3	14/3 予想
設備投資	36.9	74.8	108.9	102.2	100.4	39.8	58	95.1	118.3	109
減価償却費	55.0	55.0	59.4	73.0	73.4	73.9	75.4	74.0	73.6	78.0



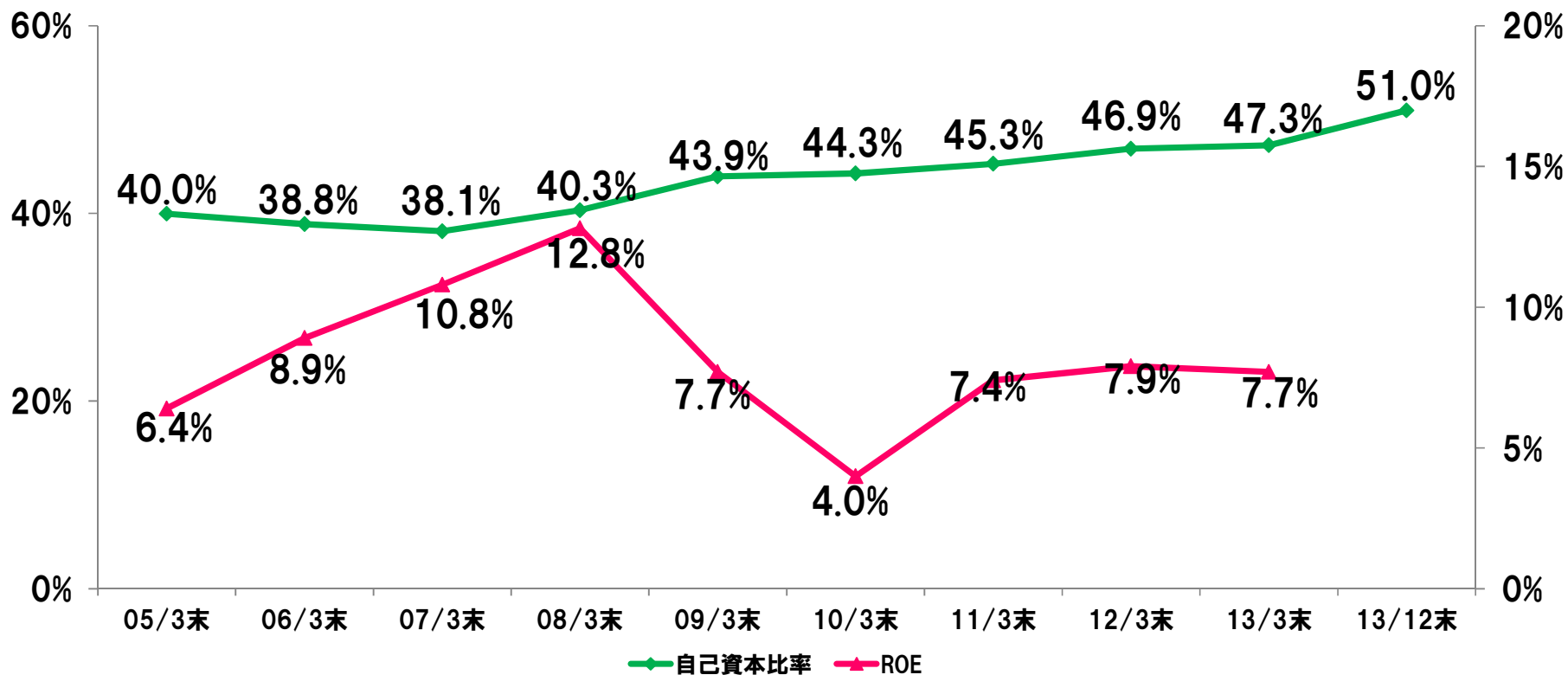
3. 有利子負債、ネットD/Eレシオ



単位：億円

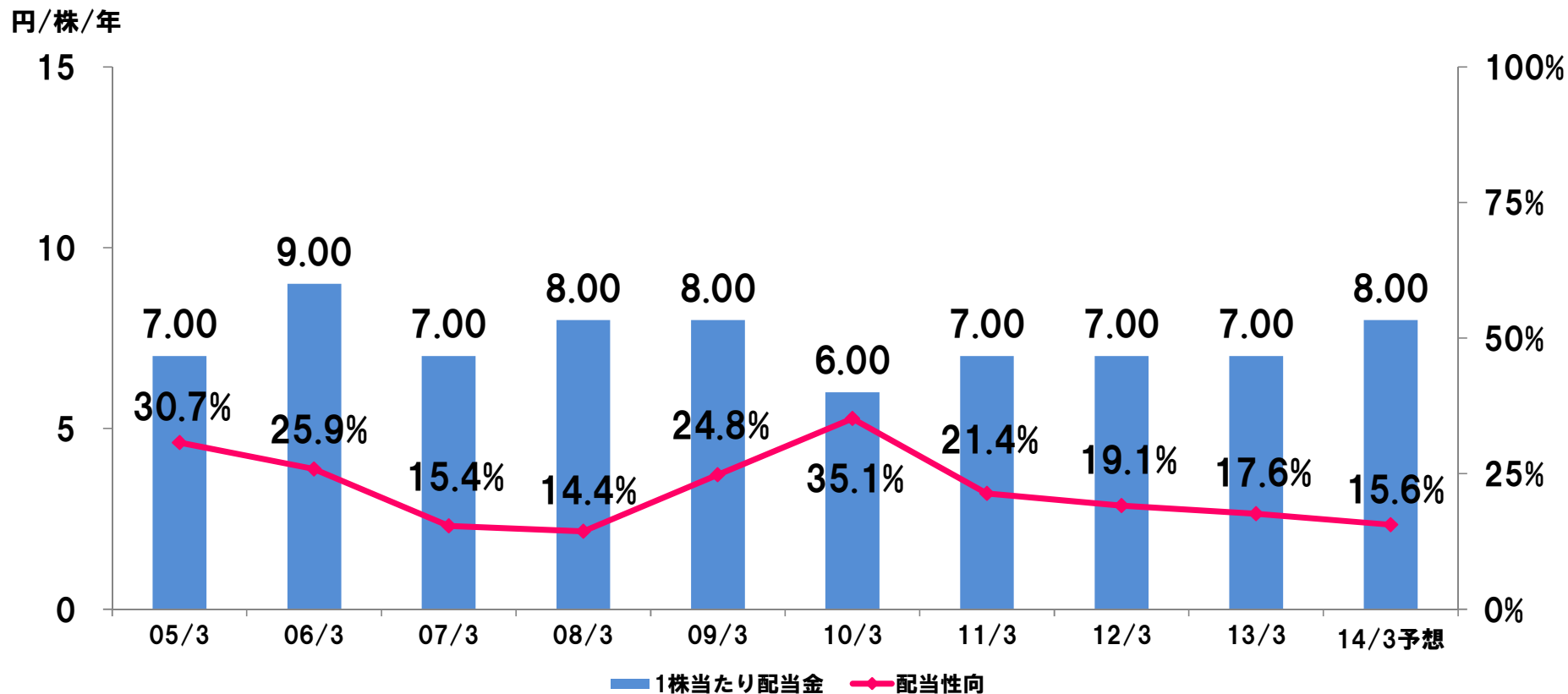
	05/3末	06/3末	07/3末	08/3末	09/3末	10/3末	11/3末	12/3末	13/3末	13/12末
有利子負債残高	433	389	423	393	376	389	312	274	365	372
D/Eレシオ(ネット)	0.44倍	0.36倍	0.34倍	0.26倍	0.34倍	0.23倍	0.17倍	0.15倍	0.16倍	0.16倍

4. 自己資本比率、ROE



	05/3末	06/3末	07/3末	08/3末	09/3末	10/3末	11/3末	12/3末	13/3末	13/12末
自己資本比率	40.0%	38.8%	38.1%	40.3%	43.9%	44.3%	45.3%	46.9%	47.3%	51.0%
ROE	6.4%	8.9%	10.8%	12.8%	7.7%	4.0%	7.4%	7.9%	7.7%	-

5. 配当金と配当性向の推移



単位：円

	05/3	06/3	07/3	08/3	09/3	10/3	11/3	12/3	13/3	14/3予想
1株当たり配当金	7.00	9.00	7.00	8.00	8.00	6.00	7.00	7.00	7.00	8.00
配当性向	30.7%	25.9%	15.4%	14.4%	24.8%	35.1%	21.4%	19.1%	17.6%	15.6%

本資料に記載の事業計画および業績予想等に関する記述は、本計画の策定時点において当社が入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、各種要因により、これらの数値とは異なる結果になりうることをご承知おきください。